



## 会員近況

東京工業大学  
大学院総合理工学研究科システム科学専攻 増田 伸爾

今春は、システム科学専攻の20数名の修士1年の学生等に「General Topology」と「システムの計画と設計」という授業の講義を実質的に受けもっています。後者は、定型的意思決定問題（いわゆるOR問題）よりも、むしろシステムの境界や価値観の設定も容易でなく、意思決定者間の力関係も含むようなきわめて非定型的な問題を主にとりあげます。しかしこのような問題になりますと、論理的フレームワークはともかく、教材の発掘には一骨折りで、どなたか手頃なよい実例がありましたら分野を問わず教えていただきたいと思っています。

研究室内では、ゼミの主催、修士論文、卒業論文の指導にあたりますが、テーマにOR関係のものは少なく、戦略レベルまたはマネジメントレベルにおける種々の意思決定問題などがよく選ばれています。

個人的には、システムが増殖するとはどういうことなのか、システムの死滅とはどういうことか、能率的にうまく死滅させるにはどうしたらよいのか等に興味があります。

著書『システム工学の現状と展望』（共著）

訳書『一般システム思考入門』（ワインバーグ著）

趣味 テニス、碁、洋ツバキ。

大分市医師会立アルメイダ病院 杉田 肇

医療の本質を度外視した医療論議の横行するなかで、医師会活動を実践的ORのフィールドとして実地踏査発表したMMS（Multichannel Medical System, 技術集積型健康開発システム）構想も早や10年を経過し、その構想のもとで作られ、医師会病院（救急医療センター、脳卒中、心血管センターを含む）、高等看護学院、准看護学院、成人病検診センターも完成、最終チャンネルである特別養護老人ホームも本年6月にオープンする。

かくして予防、早期発見、治療、リハビリ、健康教育、健康増進までの包括医療のモデルが完成することと

なる。Technology 優先の中で、どんな魂を盛り込むか、1 + 1 を 3 or 4 にすべく目下質の向上に意を注いでいる。

特に検診センターでは3年のランニングで10万人の健康時データが生まれており“明日の医療”として“個と集団の Care”が考えられようとしている。(1983年4月第21回 医学会総会で発表予定)。また経済学者との共著「新しい福祉を求めて、MMSからMWS (Multichannel Welfare System) へ」も完成間近かになりました。

OR学会の方々のこれまでのご鞭撻を感謝している今日このごろです。

東京理科大学工学部経営工学科 林 陽一

現在まで、ネットワーク理論、非線形計画法、マトロイド理論を中心に数理計画法全般に興味をもって研究を行ってきました。経営工学における講義体系の中でのORはその一分野であることになるかも知れません。しかし、OR誌を読んでいると、その適用範囲の広さ、柔軟性に今さらながら驚かされます。経営工学とORは“物事のシステム化”という考え方において、人間、社会、技術(あるいは科学)を結合する際に発生する“最適化”の作業を実行するうえで密接な関係をもっていると思われまます。

このような考え方を背景として、数理計画法全般の研究をしてきましたが、最近特に興味をもっているのは、(ポリ)マトロイドの理論とその工学的応用です。この分野におけるわが国の研究は、国際的にみても高いレベルにあると思われるのに、積極的に研究する方々が増加したのはここ数年のことのように思います。その理由としては、(1) 工学的応用を志向して書かれた教科書的な文献、書物が少ない。(2) 文献を読むうえで東論等のあまり親しみのない数学の知識が必要なことが多い。等が考えられます。マトロイド理論に興味をもつには、できるだけ多くのマトロイドの例をみて、多数の公理系を理解することが近道だと思います。

最近、マトロイド理論の工学的応用に関する研究もふえつつあり、潜在的研究者が激増する様相を呈しています。その意味で、本誌に第26巻7号から連載されている大山先生の解説は、私のような初心者にもわかりやすく、時宜をえた連載だと思います。